

国立自然史博物館設置に関する要請決議

日本学術会議は、東アジア地域の自然標本やデータを網羅して収集・保存し、総合的な研究拠点となる「国立自然史博物館」を沖縄県に設立する提言を今年の5月に正式決定し事業化を促進していく予定であります。

本市のある八重山諸島にはイリオモテヤマネコをはじめとする中国大陸や東南アジア由来の動植物が数多く生息しており、島々をとり囲む世界屈指のサンゴ礁域、石西礁湖は豊富な海洋生物を育みます。夜空は偏西風の影響を受けないため天体観測は国内トップクラスです。さらには、県内最古の地層とされるトムル層や新空港周辺の白保竿根田原洞穴遺跡からは約2万4千年前の人骨が発見されるなど、八重山諸島全体が研究フィールドとして注目されています。

南ぬ島石垣空港の開港により国内主要都市とのアクセスが充実しており、多くの研究者や自然を愛する人々が行き集い、世界のアジアに誇れる日本の国立自然史博物館として、自然と文化的刺激に満ちた八重山諸島の中心にある本市は最適地と考えられます。

本市に国立自然史博物館を設置することは、学術的価値はもちろんのこと自然環境保全、教育、研究分野においても重要であり、住民及び島を訪れる観光客等が自然に対する理解を深めるとともに、国立自然史博物館設置によって地域・離島格差が是正され自律的で持続的な社会を創生できるようになります。

このためにも、是非、国立自然史博物館を石垣市に設置していただきますよう要請いたします。

以上、決議する。

平成28年3月18日

石垣市議会

あて先

内閣総理大臣、文部科学大臣、国土交通大臣、地方創生担当大臣、環境大臣、沖縄及び北方対策担当大臣、沖縄県選出国會議員 沖縄県知事